

事例3

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代、心房細動（アブレーション治療歴あり）、慢性心不全の患者。左室機能低下あり。BMI 24.9 kg/m²。
- ・ 心室期外収縮に対し、イリゲーション電極カテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・ 右室流出路の焼灼後に腰痛を認め、鎮痛薬を追加投与した。心房細動の再発に対しても、左下肺静脈を焼灼した。その後、体動を認め鎮静薬を再追加した。左室流出路近傍を追加焼灼後に血圧が低下し、透視と心臓超音波検査で心タンポナーデを認めた。心嚢穿刺を実施したが心停止となり、経皮的心肺補助（PCPS）、心膜開窓術を実施した。その後、開胸止血術を実施したが、治療 9 時間後に死亡した。
- ・ 死因は、左心耳穿孔、大動脈解離による心タンポナーデ。解剖有、死亡時画像診断 (Ai) 無。